

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名 ホピー		児童発達支援事業所における自己評価結果			
		公表日 R7 年 4 月 10 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		現状はスペースが十分にある 児童が増えてきた場合は検討が必要	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		職員配置数は適切である	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		分かりやすく設置している	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		定期的に清掃を行っている	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用する ことが認められる環境になっているか。	4		個室を用意しており、環境に合わせて利用できるようにしている	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		職員全員で話し合っている	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	放ティでは確認しながら改善を努力している 児童発達支援は今年初めて児童が利用になり評価表をいただけていない	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員全員が意見を出し合える環境を作っている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	第三者評価を行っていない	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		定期的に法人研修や、外部研修に参加している。また、参加していない職員に対して伝達を行っている	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		児童発達支援は今年度初めて利用が始まったが、支援プログラムは公表している	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		保護者と面談を定期的に行い支援計画を作成している	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員全員で話し合っている	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		全員で確認をしている	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		児童の利用時間前までに確認を行っている また、確認を踏まえて当日の支援に取り組めるよう行っている	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		基本的にはガイドラインに沿って計画を作成している 各項目全て入らない事もあるが、より具体的に支援内容を設定するようにしている	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員全員で話し合っている	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		マンネリ化しないよう工夫を行っている	

関係機関や保護者との連携	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	個別活動が多いが、可能な限り集団活動も入れて支援を行っている 職員全員で話し合っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	職員全員で話し合っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	中の支援記録はしっかりととっている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	ミタリングは定期的に見直しと検討を行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	番閥わりのある職員が参加するようにしている	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	保育園との情報共有はあまり出来ていなかった
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	利用児童が3か月で放ディに移行したため学校との情報共有がほとんどできなかった
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	3	まだ助言をもらったりする機会を設けていない
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	1	3	児童利用開始して3か月で放ディに移行されたため地域の園と接することがなかった
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	保護者とは帰りの際話をしている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	適切な時間を持って行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	定期的に面談を行い意向を聞いている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	可能な限り相談に応じている	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4		父母会はほとんど行われていない年に一度程度イベントを行い、交流できる機会を作っているがまだまだ少ないと思っている
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		極力迅速に対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		インスタグラムを活用している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		書類はしっかりと保管している 個人情報には十分に配慮している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		なるべく伝わりやすいよう個別で配慮している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	書類の作成は終えている。職員に周知はしているが、ご家族に周知は完璧でない。訓練は随時行っている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1	まだ机上訓練を行っただけである もう少し訓練が必要	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		保護者より確認を行っている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4		食物アレルギーのある児童は今いない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		適宜法人内で研修を行っている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4			

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポピー		
○保護者評価実施期間	R7年3月1日	～	R7年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	R7年3月1日	～	R7年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年4月10日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援の児童が1名のみだったので、かなり手厚く見守ることが出来たと思う	本人主体で活動を行っている。極力活動を自分たちで決めてもらい、楽しめる空間を作った。	児童が1名だったので出来ることが多かった。 今後増えた時のことも考えて行こうと思う。
2	送迎時間にかなり融通が利けるように対応した	保護者様の希望に極力お応えできるよう送迎時間は柔軟に対応している	今後も可能な限りの対応は行っていく
3	活動は放デイとの合同が多く、すぐに放デイに移行になったので違和感なく利用できている	少しずつデイとの活動を増やし、4月よりすんなりとデイをご利用いただけるようにできた	ほぼ同じ部屋で活動をしているので今後も利用児童が来られた際は活動を共有していきたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会を行っていない	3か月の契約の後に放デイに移行されたのでお話をする機会がなかった	もっと以前からご利用があればやれたであろうと思われる
2	他事業所や保育園等との交流が少ない	3か月の契約の後に放デイに移行されたので交流を行うには期間が短すぎた	もっと以前からご利用があればやれたであろうと思われる
3			

公表 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名 ポピー						公表日 年 月 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		極力室内の荷物を減らし、大きく使ってもらうよう工夫している	今後児童が成長してきた場合少し手狭に感じるかもしれない。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	2		曜日ごとに分けて清掃に力を入れる必要がある。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		個室対応はしっかりできているので必要に応じて利用している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	各職員計画的に振り返りを行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		定期的な面談を経て業務改善を行っている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		第三者評価は現在行っていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		職員が興味関心のある研修は参加している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		プログラムは固定せず、様々な事を出来るようしている	

25	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4			
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4			
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4			
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		月の予定表を作成し、各自毎日確認しながら調整を行っている。必要な際は誰が行くのか話し合っている	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		今年度はこども園との連携を密に行っていて就学した児童の様子を共有している 同法人内の方は密に連絡を取っている。 他法人に行く方に関しては電話等にて様子をお伝えしている	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2		研修には参加しているが助言は受けていない
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	1	放デイの他事業所との活動は少しずつ増えている	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	こども部会、祭りの実行委員会には参加しているが、参加者は固定している	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		ペアレント・トレーニングや研修の情報提供は出来ていない。 今後必要に応じてしていく
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	1		
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		家族が参加出来るイベントを行っているが参加者がまだ少なく感じている	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		見学自由にしているが、招待するような行事はまだ行われてない マニュアルは出来ている、発生を想定した訓練はあまり出来ていないので今後行っていきたい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	2		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		てんかんのある児童には医師、保護者の同意をもらい薬の保管を行っている	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4		医師の指示が必要な食物アレルギーをお持ちの児童が利用していない。 今後利用した際は対応していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		法人年間研修に虐待防止研修を取り入れている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4			

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポピー		
○保護者評価実施期間		2025年 2月 23日	～ 2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間		2025年 2月 1日	～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	土曜や長期休暇の際は一日外出や調理実習を積極的に取り入れて活動を充実している	他のデイサービスでは体験できないような場所に積極的に出かけている。費用負担も極力かからないような場所を選んで行っている。 外出活動を行わない日は調理実習を取り入れてご家族のお弁当作りの負担を減らす努力を行っている。	合同開催のイベントなど、他事業所との関わりを増やしていく
2	送迎時間、利用時間、児童に対する対応等ご家族やご本人のニーズに合わせて臨機応変に対応していくことができる	直前のご連絡でも即座に対応するよう努力している また、情報共有もリアルタイムで行っている	引き続きすぐに対応できるよう職員間での連携を保っていく